

令和8年度 第1回長岡京市スポーツ推進審議会

○日時:令和 8 年7月 24 日 19:00～20:30

○場所:長岡京市役所 8 階 会議室 802

○出席者:山本委員、中村委員、折萩委員、鬼村委員、大木委員、河原委員、中澤委員、小山委員、山田委員、
平山委員、畑委員、名原委員、飯牟礼委員、黒柳委員、事務局（順不同）

○欠席者:

○事務局:教育長 西村

教育部長 中島

文化・スポーツ振興課長 宮崎

同 部活動地域展開コーディネーター 川上

同 係長 鈴木

同 主事 三宅

同 主事 江森

○傍聴者:なし

○内容

1. 開会

(1) 教育長あいさつ

2. スポーツ推進審議会

(1) 会長のあいさつ

(2) 報告事項

①部活動地域展開について

②令和 8 年度の主要事業の実施状況について

3. その他

○議事の内容

1. 教育長あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

順番を入れ替えて先に報告事項②へ

②令和 8 年度の主要事業の実施状況について

(事務局)

資料2の内容を説明。

(委員)

市民大運動会を3校区合同で行うとのことだが、内容は校区対抗の運動会になるのか？

(委員)

校区対抗の種目もあるが、それ以外にも学年で分けての陸上競技や、車いすバスケの体験コーナー、防災コーナーを予定している。中学校を借りて開催するので、体育館と武道場に空調をかけて幼児向けのコーナーも予定している。

(委員)

今回の合同開催が上手く実施できたら他の校区でも合同で開催することはあるのか。

(事務局)

他の校区も合同で行うかは現時点では未定と聞いている。また、今回の合同開催は、担い手不足や運営の効率化といった課題に対しての取り組みとして3校区の方向性が一致したため実施することとなったが、来年度も継続するかについても未定と聞いている。今回の合同開催を参考に、他の校区で合同開催を行うか各校区で検討してもらうことになる。

(委員)

新日本プロレスの興行は、どれだけの費用がかかり、何人くらいの規模なのか。

(事務局)

まだ公表されていないためわからない。他の自治体の例だと、チケットは5000円程の価格から段階に分かれて、子どもは1000円程低くなるといった事例はある。人数は把握していない。チケットの販売についても、確定次第広報するが、ファンクラブへの販売から市内住民への販売、一般の方への販売、という順番になると思う。

①部活動地域展開について

(事務局)

資料1の内容を説明。

(委員)

部活動地域展開は市だけではなく、全国での課題。京都府でもガイドラインを出しているが、原則であり、絶対のものではない。

(委員)

部活動地域展開の対象は中学生だけで、高校の部活動は含まないのか。

(委員)

今は中学生の部活動のみが対象。

(委員)

総合型地域スポーツクラブはどういう位置付けになるのか。

(委員)

現時点では決まっていないため、これから決めていくことになる。おそらく実施主体の1つになるのではないかと。運営主体をどうするかも現時点では決まっていない。

(委員)

運営主体は、それぞれの校区で置かれるものと思っていたが、全体で大きな運営主体が1つ置かれて、そこから総合型地域スポーツクラブのような活動母体が分かれていくのか。

(事務局)

必ずそうなるとは限らない。各校区に小さな運営主体を設置する考えもあるし、大きな運営主体から小さく分けていく考えもある。先進的な事例に、活動母体として総合型地域スポーツクラブを認定している自治体はあるが、自治体によって状況が変わってくる。

(委員)

地域展開が進むと、平日と休日で違う団体で活動することもあると思うが、現在でも平日に部活動をしながらか休日はクラブチームに所属している子どもはいる。部活だけの子と、クラブチームにも所属している子ではどうしても実力差が出てくる。個人競技ならば、問題ないかもしれないが、集団種目の場合はチームワークや指導者との関係がどうなっていくのか想像できない。

(事務局)

試行事業として実施している男子バレーボールチームの「長岡京ブレイブ」は、子どもは各校に所属していて、ブレイブの活動のときに集まる。大会のときには生徒に選択させている。実際には、夏の大会は学校として出る子が多い。子どもたちが選択できるような形で運営してもらいたいと考えている。中体連の基準は決まったものはないが、競技ごとで地域クラブの取り扱いについての基準が出たりしているので、今後、一定の結論が出てくると思う。

(委員)

部活動とクラブチームが同じ大会に出ると、実力の差が出そうで心配。

(委員)

各校のトップがクラブチームとして大会に出て、それ以外が部活動として出るようなことは、費用をかけて通うクラブチームで個人競技ならまだしも、団体競技となると難しい。休日に試合があると、部活動とクラブチームを兼職兼業している教員はどちらを取るかという話にもなってくる。兼職兼業の場合の給与体制も考えないと、やる気のある教員を搾取するような形になってしまうことが心配。トップダウンで、市や校長が教員に伝えるのではなく、現場の声を反映させながら、指導者の登録制度を作ってもらいたい。

(委員)

令和13年が一つのゴールとなっているが、令和13年から完全な地域展開ができるわけではないと思う。国の基準を参考に市独自の基準を作るべきだと思う。一番大事なことは子どもが部活動と同じように地域でも活動できることなので、学校と地域の連携を重視しながら、やり方を間違えないように基本的なところから大きくしてほしい。一度に全部やろうとするとパンクするので、できることから始めていけばいいと思う。小さいことからならば、地域の団体が協力できることも多いと思う。

(事務局)

市としては、国が出している認定要件以上に考えなければならないことがある。市に合ったルールを作る必要があると考えている。

(委員)

先ほどの、選抜されたメンバーしかクラブチームとして大会に出られないようなクラブは市から認定されないような認定要件を整備していく必要がある。

(委員)

部活動地域展開検討委員会でも色々な意見が出ており、部活動の現状を見ながら市も試行錯誤の最中。長岡京市は子どもの数が多いので、選択肢は多いと思う。子どもの数が少ない自治体は一つのアクションを起こすだけではどうにもならないのに加えて、地域への負担も大きい。地域性を加味したうえで考えていく必要がある。色々な体験をできるようにしなければならないし、できることからやらなければならない。できるだけ学校の活動の延長のような形で休日に移行できればいいと思っている。

(委員)

運営団体の設置について、場所や目標、会計などの考えなければならないことがいくつかあるが、各運営団体が自分たちで決めていくのか、市が決めていくのか、どちらになるのか。

(事務局)

その割り振りから考えていく必要がある。他市の事例でも、役割分担をしている例がある。必ずどこかがやらないと成立はしない。

(委員)

事務局が保護者や子どもに対して実施したアンケート結果について、紹介してほしい。

(事務局)

保護者・小中学生・教師に対してアンケート調査を行い、部活動の時間や内容について確認を取った。時間や活動日数については、保護者も生徒も満足している。部活動に求めていることは、友達ができることや、楽しさを重視しているという声が多いが、地域に展開するとなると専門的な指導を期待する声と、移動の負担や、指導者との関係性、学校と地域との一貫性を心配する声がある。先生からも、地域展開に期待することは負担が減ることという声が多い。また、先生の中でも地域展開に協力したい・条件が合えば協力したいという声が半数以上な一方で、協力するつもりはないという声も3割ほど見られる。

4.その他

4. 閉会